

リアルタイム地震被害推定情報の社会実装

マルチハザードリスク評価研究部門 高橋郁夫

Point

- 国内で発生した地震の発生直後にリアルタイムで被害を推定！
- 社会実装に向けて実証実験や調査を継続中！
- 民間企業のニーズや課題等を抽出し、システムにフィードバック！

研究の領域

予防	応急対応	復旧・復興
予測・情報力		
防災基礎力		

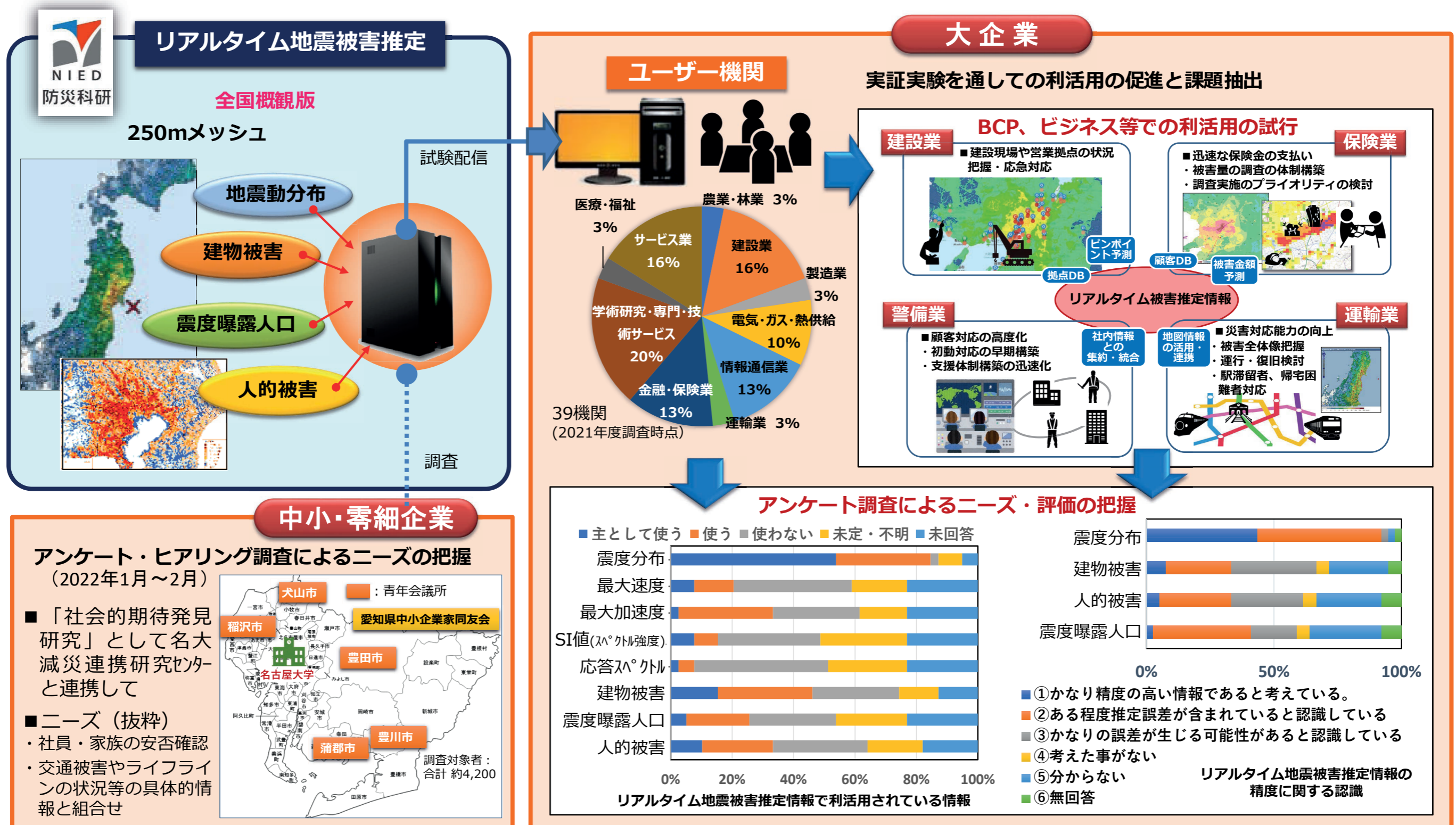
概要

防災科研では、地震災害における早期の初動対応の確立等を目的として、地震発生直後にリアルタイムで被害推定を行い、その情報を発信するシステムを開発した。本システムでは、地震発生時に、日本全国に配置された地震計から観測データをいち早く収集して面的な地表の揺れを推定し、これを基にして、建物や人的な被害を推定する。これらの被害推定情報はパソコンやスマートフォンで見ることができ、また、加工して防災情報として活用できるようにデジタル値としても出力される。これまで、本システムの社会実装に向けて、民間企業等の利活用を促進し、またニーズや課題を抽出するために、大企業を中心とした実証実験を継

続して行っている。また、最近では、本情報を身近な防災対策の情報として活用してもらうため、愛知県内を拠点とする中小・零細企業の経営者層に対してアンケート・ヒアリング調査を実施し、具体的な利活用のシーンや必要な情報等について、大企業とは異なる視点での利活用のニーズを把握できた。

今後の展望・方向性

防災科研では、実証実験やアンケート調査等によって抽出されたニーズや要望、問題点や課題を踏まえ、様々な分野において、種々のユーザーによる利活用が進むように、被害推定や情報配信の方法等の改良や高度化、機能の追加等に役立てていく。



企業を対象としたリアルタイム地震被害推定の社会実装に向けた取組み

